

シンビオシス～共生～ サポ協だより

vol.15

発行：一般社団法人
全国知的障害児者生活サポート協会
編集：事務局長 田口 博
〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-12-14
廣瀬ビル 4階
TEL：03-5577-6351 FAX：03-5577-6352
URL：<https://www.zensapo.jp/>

危機をチャンスにするしたたかさを

一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会 理事長 加藤 正仁



昨年末から始まったこの地球的な規模での新型コロナウイルスはすでに半年を経過しています。しかし残念ながら今日に至っても終息どころか収束すら目処がついていません。

我が国においてはもちろんですが、地球上のあらゆる国々においても内容はいろいろであるとしても考える様々な対策が試みられているようです。今回の感染被害での死亡者を含む医療的な被害は計り知れないものですが、そのことによる社会的、経済的な被害、あるいは人々の心身の消耗は、前例のないこのパンデミックの終息が見えない中にあるには想像を超えるものがあり、「新型コロナ時代の新たな日常性の創造を」とまで言われていて、これまでの社会構造を変えてしまうのではないかとさえ言われています。

会員関係者の皆様にはこの前代未聞な社会的災害と混乱に際し、衷心よりお見舞い申し上げますと共にくれぐれもご自愛いただきます様お願い申し上げます。

確かに我々はこのところ毎年の様に地震だ、洪水だと想像を絶する天災や人災に見舞われ、深刻な被害を被り続けて来てはいますが、今回のように世界に跨っての広域で、多方面で、しかも長期にわたるこのような被災は初体験であり、その意味では誰しもが罹患や将来に対する不安や恐怖心などの中での試練に満ちた生活を強いられています。

唯でさえ昨今の世の中は「繁栄」という御旗の下に効率や能率をひたすら追い続け、確かに見かけの豊かさを享受していると思いますが、しかし社会全体が狭量で、いつも何かに追い立てられているようで、そこに暮らす人々にとっても心身にゆとりのない、落ち着かない、浮ついた感じの日々の様な気がしてなりません。

そんな最中にあっても我々はこれまでの多くの辛い災害や事故からの反省から、「連帯」とか「連携」とか「絆」とか「結」の大切さを学んできました。そして、それが漸く社会に根づこうとしていた矢先のこの騒ぎです。「三密回避」だとか「ソーシャルディスタンスの確保」とか言われ、気ままに仲間にも、罹患者が亡くなられた場合には最後のお別れすらままならない事態にまでなりました。

しかし今を生きている我々にはこの前例のないストレスフルで、鬱屈した状況下ではあるとしても、生きることを止めるわけにはいきませんし、一人では生きられません。

今までと同様に多くの仲間と共に、お互いを思いやり、謙虚に、イマジネーションと希望を持って前進しましょう！

今までと同様に多くの仲間と共に、お互いを思いやり、謙虚に、イマジネーションと希望を持って前進しましょう！

Crisis は Change の Chance であるとも言われています。我々の mission のさらなる高みを目指してしなやかに、したたかに Challenge を期する時節の到来と受け止めたいものです。(2020.5.31)



2020年度定時社員総会報告



日本国内における新型コロナウイルスの感染者は2月の終わりごろから拡大し、4月には緊急事態宣言が発令されました。当会では5月28日に大田区産業プラザ・コンベンションホールで定時社員総会を行う予定となっておりましたが、例年、全国からサポート協会の代表者や職員、総勢100人以上が集まることから総会は開催せず、「みなし総会」を行うこととなりました。

「みなし総会」の場合、提案された事項について全ての社員代表者の同意が必要となります。当会理事長より2019年度事業報告及び収支報告、一部理事の交代が提案され、全国のサポート協会のご協力で、全ての社員代表者から同意をいただき、議案は承認となりました。

また、総会後の研修会としてNPO法人 口から食べる幸せを守る会の理事長・小山 珠美氏をお呼びし「障害者の健康管理」という演題で講演を行っていただく予定でした。こちらに関してましては、当会あてに小山様から文書をいただきましたので、この場で紹介させていただきます。

2019年度収支計算書
2019年4月1日から2020年3月31日まで

2020年度収支予算書
2020年4月1日から2021年3月31日まで

運営の部				
収入				
大科目	中科目	決算額	補正予算額	予算額増減
運営費収入		28,120,600	27,868,200	252,400
	入会金	0	0	0
	年会費	28,120,600	27,868,200	252,400
雑収入	雑収入	40	1,000	△ 960
前期繰越金		7,734,056	7,734,056	0
合計		35,854,696	35,603,256	251,440
支出				
大科目	中科目	決算額	補正予算額	予算額増減
事業費		8,683,538	11,291,000	△ 2,607,462
	運営費返金	18,400	18,400	2,400
	助成及び支援金	6,265,260	7,850,000	△ 1,114,576
	啓発宣伝費	871,932	1,000,000	△ 128,068
	当会事業費	0	150,000	
	MVP委員会	533,560	1,000,000	△ 466,440
	支払手数料	994,386	1,275,000	△ 280,614
管理費		18,920,646	19,978,000	△ 1,057,354
	人件費等	5,552,249	5,583,000	△ 30,751
	会議費	5,074,603	6,000,000	△ 925,397
	旅費交通費	1,608,360	1,530,000	78,360
	事務所維持費	3,721,917	3,921,000	△ 199,083
	印刷製本費	1,154,842	1,120,000	34,842
	その他	1,808,675	1,824,000	△ 15,325
予備費			4,334,256	△ 4,334,256
繰越金	次期繰越金	8,250,512		8,250,512
合計		35,854,696	35,603,256	251,440

運営の部				
収入				
大科目	中科目	2020年度予算額	備考	
運営費収入		28,997,700		
	入会金	0		
	年会費	28,997,700	200円×143,977人=28,795,400 100円×2,023人=202,300 計28,997,700円	
雑収入	雑収入	1,000	利息	
繰越金	前期繰越金	8,250,512	2019年度繰越金	
合計		37,249,212		

支出				
大科目	中科目	2020年度予算額	備考	
事業費		11,271,000		
	運営費返金	20,000	旅送・二重払込等による入会金及び年会費の返金	
	助成及び支援金	6,176,000	小規模サポート協会支援金、ブロック活動費補助金 広報紙送付助成金、主催事業助成金	
	啓発宣伝費	1,000,000	広告掲載、HP維持等	
	MVP委員会	1,800,000	研修会費、弁護士委託費、カレンダー作成費	
	委員会旅費等	1,000,000	委員会旅費等	
	支払手数料	1,275,000	振込手数料等	
管理費		20,041,000		
	人件費等	6,024,000	職員給与、社会保険、福利厚生等	
	会議費	5,700,000	総会、理事会、三役会等	
	旅費交通費	1,101,000	ブロック会議、通勤手当等	
	事務所維持費	4,229,000	官賃料、光熱費、通信費、リース料、消耗品費等	
	印刷製本費	1,176,000	広報紙作成費	
	その他	1,811,000	租税公課、会員管理費、顧問料、渉外費等	
予備費		5,937,212		
合計		37,249,212		

保険料の部		
大科目	決算額	
預り保険料	2,358,843,370	

保険料の部		
大科目	2020年度予算額	備考
預り保険料	2,758,282,880	2020年度会員目標 146,000人

事務所移転特別会計		
大科目	2020年度予算額	備考
収入	10,675,000	定期預金・旧事務所保証金
支出	4,351,000	原価回収、新事務所保証金、引越費用等



全国知的障害児者生活サポート協会様へ

NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長 小山 珠美

2020年1月に新型コロナウイルスが中国武漢で発生し、またたく間に世界に広がりました。WHOは感染拡大を鑑みてパンデミック宣言をし、日本で予定されていたオリンピック開催は1年延期となりました。4月7日には東京・神奈川などの都市部に非常事態宣言が発出され、目に見えないウイルスとの戦いが世界中で繰り広げられています。そのような社会情勢の中、5月28日に予定されていた本協会の研修会が延期となりました。

私は長年の臨床や教育現場で、「口から食べる」ことを大切にする看護を実践してきました。小さな子どもから、重度の障害がある人、要介護高齢者、終末期にある人々へ「食べて命を生きる」を大切にしてきたつもりです。食べることは、人生の楽しみであり、喜びであり、幸せだからです。そして、家族も幸せになるからです。ある時は、医師から食べる事は困難と診断されても可能性へチャレンジし、ある時は、災害で水や食べ物が不足しても命をつなぐ方法を見出してきました。その一方で、食べたい願いを

叶えてあげることができない無力感に涙したことも幾度となくありました。

病気や障害が重度であっても、食べる幸せは誰しも等しくあります。しかしながら、自分で安全に食べることが難しい場合や、自分の意思伝達が十分でない人への食支援は、等しくなされていないと思っています。安全という隠れ蓑を盾に、ハードルの高い検査の強要、本人の願いに背いた人工栄養（胃ろうや点滴などの口から食べない栄養療法）への依存、軽率で危険な食事介助などが増えてきたからです。口から食べない栄養を長期的に続けると、心身の機能は衰えの一途を辿ります。脳は殆ど眠ったままで、何の指令も出せなくなります。そして、本人の食べる楽しみが失われます。皆さん自身が人工栄養だけで、寝たきり状態になったらどうでしょうか？危険な食事介助をされたら怖くありませんか？そのような経緯から、食べることの価値を再認識し、食べることが困難な人々に心を寄せ、実践的スキルをもった食支援者を増やしたいと考え、NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 (KTSM) を2013年に設立しました。

口から食べることをサポートすることは、子どもたちの成長発達、身体活動低下の予防、低栄養の予防、社会参加などを良好に保つことと密接に繋がっています。ひいては、医療費・介護費用の削減にもつながります。何よりも、「生きている限りおいしく食べて幸せに暮らしたい」という誰もが願う人生のテーマの達成になることでしょう。

そのためには、口から食べることを、医療や福祉関係者だけに任せることなく、自分だったらどうしてほしいかを真剣に考えて行動すること。家族や地域住民を含め、より多くの人たちが、主体的に参画する包括的食支援システムの再構築が必要です。人間の命には限りがあります。いつかは食べられなくなって死を迎えるという覚悟も必要でしょう。命について見つめなおし、口から食べることの理解やその知識を深めることができるような包括的食支援体制の強化が求められます。

新型コロナウイルス感染に打ち勝って、皆様と一緒に研修会ができる日が早く来ることを期待しています。



2020年度『アールブリュット作品展』 入賞作品

2020年度は全国から70作品の応募があり、全国のサポート協会にて投票を行い、129人から票が集まり、票の多かった3作品を入賞といたしました。

※作品作者名 敬称略



動物園

佐賀加奈子（絵画・色鉛筆）



ぼくの“きりん”

佐藤望（シール貼り絵）



みんなが楽しくおもしろくみえるように

吉田淳一郎（絵画）

サポート協会事業紹介

2018～2019年度実施事業「親なきあとセミナー」10会場にて実施
北の大地、北海道を一巡する勢い！

北海道知的障害児者生活サポート協会 事務局長 樋口 賢治

「自分たちが居なくなったあと、子どもはどんな生活を送るのか?」「お金は足りるのか?」「体調を崩したら、だれが面倒を見てくれるのか?」「悪い人に騙されたりはしないか?」・・・

親や家族にとって、これほど切実な悩みはありません。北海道サポート協会では、こうした不安や疑問に応えようと「親なきあとセミナー」を連続して開催。各会場とも参加者は、他障がいの親御さんをはじめ、行政の担当者、地域の民生委員、社労士といった専門職の方々等、会員の枠を超え、かつてない取り組みが展開されました。

2018年度は、道央（札幌市）・空知（岩見沢市）・道北（旭川市）・道南（函館市）・胆振（苫小牧市）の5地区で開催。2019年度には、道央（江別市・北広島市）・十勝（帯広市）・胆振（室蘭市）・オホーツク（網走市）の5地区。計10地区に及び、参加者は1,000名を数えました。

参加者から寄せられた感想の一部を紹介します。

- ・「親なきあと」＝「成年後見」と考えていましたが、様々な選択肢があることがわかりました。親も知識をつけ、学んでいく必要を感じました。
- ・自分が知っている制度、仕組みは、ごく一部であることがわかりました。とても詳しくわかりやすい説明をいただき、まだ、子どもは小さいですが、今後すべきことを少しずつ整理し、いざという時に備えたいと思います。
- ・他にも不安な事がたくさんあり、「親なきあとのお金のこと」は、学ぶことを先延ばしにしていたので、とても勉強になりました。これをきっかけに夫婦で話し合っていきたいと思います。

また、取り組みのポイントは以下の通りです。

- ① 北海道サポート協会だけでなく、常に北海道育成会、JICと三者で取り組みを進めました。
- ② 対象を広くとらえ、マスコミの協力、チラシ、口コミを工夫する等、呼びかけに努めました。
- ③ 講演は、分かりやすさを追求した講師の選定や、講演内容と関連する保険商品を紹介する等、常に講演会全体の質的な向上に努めました。



講師を数多くお願いした「渡部 伸氏」は、必ず最後に「いくらお金を残すかではなく、支援の制度を使える『人』が大事。子どもが通う福祉の事業所や親の会等、親自身が本人の周りに人との繋がりを作っておくこと。いざとなったら何とかできます。」と講演を締め括られ、会場はホッと笑顔を、共感の拍手で一杯になります。そして、実は私も、互助の精神を大切にする「サポート協会ならではのセミナー」に、改めてたくさんの学びと元気をいただいているのです。

編集後記

2020年5月ゴールデンウィーク明け、一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会事務局・事務所は、10年間お世話になった第一内神田ビルから隣で新築工事を行っていた廣瀬ビルに移転しました。心機一転、皆様に喜ばれる事業を展開していく所存です。今後ともよろしくお願いたします。